

母島列島 向島におけるオニヒトデ大発生について（速報）

2024年3月21日

特定非営利活動法人 小笠原自然文化研究所

概要

2024年3月6日、母島列島 向島の東側に位置する海域公園地区内において、オニヒトデの高密度分布が確認されました（情報提供：ダイブリゾート母島）。そのため、2024年3月17～18日に緊急調査を行った結果、2日間で計23個体のオニヒトデが確認されました。任意の15分間における確認個体数は最大17個体であり、スポットチェック法が定めるオニヒトデ発生状況の目安に従って「大発生」と評価されました。小笠原諸島においては初のオニヒトデ大発生事例であり、小笠原独特のサンゴ群集へ被害を与えることが懸念されます。繁殖期（6～9月頃）を迎える前に駆除を実施することが強く望まれるため、関係機関と連携を取りながら駆除計画の策定に努めます。

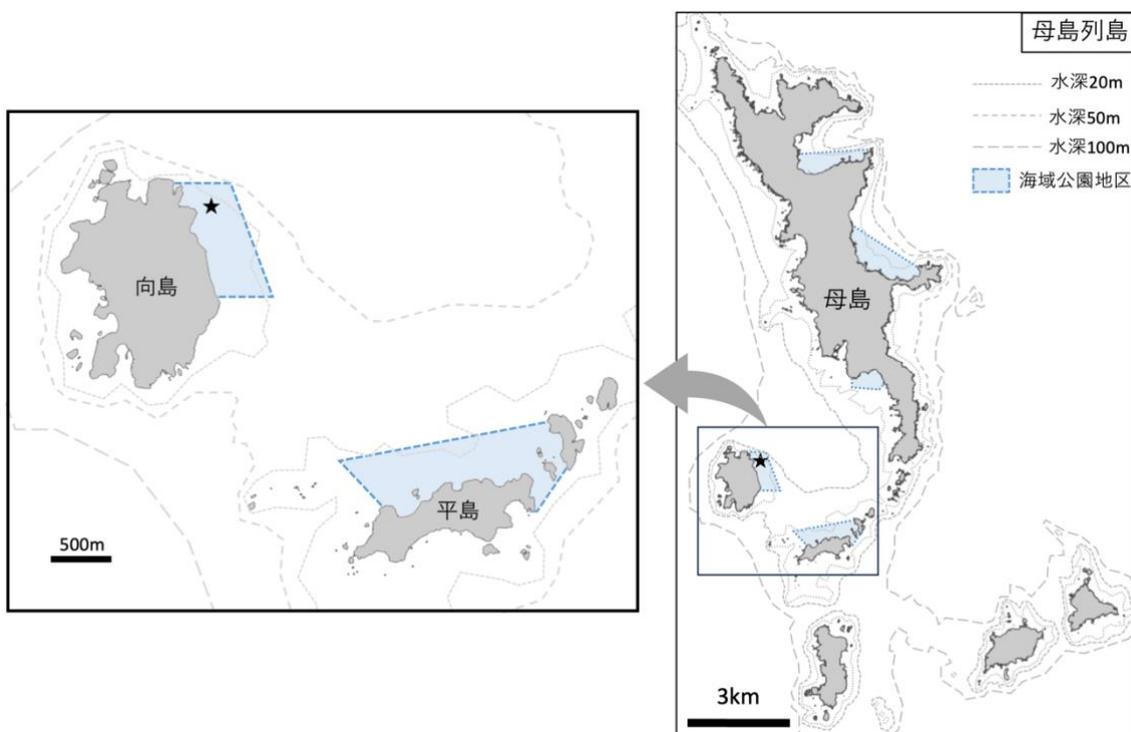


図. オニヒトデの大発生が確認された地点（★）

1. はじめに

小笠原諸島にはオニヒトデが自然分布するが、近年までその生息数は少ないと考えられていた^{1,2)}。しかし、2018年に父島二見湾奥でオニヒトデが「準大発生」し、駆除が行われたことで一時的な低密度状態を達成したが、2024年現在は再び増加傾向に戻っている³⁾。

2023年4月以降、母島列島の複数地点においてオニヒトデが頻繁に確認されており、スポットチェック法が定めるオニヒトデ発生状況の目安では「通常」～「多い（要注意）」と評価されたため厳戒態勢をとっていた^{4,5)}。

2024年3月6日、向島の東側に位置する海域公園地区内の水深22m程度でオニヒトデの高密度分布が確認されたことを受け（情報提供：ダイブリゾート母島）、オニヒトデ発生状況を把握するための緊急調査を行った。

2. 方法

2024年3月17～18日に向島および平島の海域公園地区内において、調査員3名がスクーバ潜水による探索を行った。発見した個体はデジタルカメラで撮影・記録した。

3. 結果

向島において2日間で計23個体のオニヒトデが確認された。任意の15分間における確認個体数は最大17個体であり、スポットチェック法によるオニヒトデ発生状況は「大発生」と評価された。体サイズは全長30～45cmであることから3～5歳齢と推定された。

今回、平島においてはオニヒトデが確認されなかった。

4. 考察と提言

オニヒトデが高密度に観察された地点はサンゴ被度の比較的低い環境であり、現時点ではサンゴ食害の程度は小さいと思われる。当該地点（水深17～22m程度）よりも水深の浅い場所ではサンゴ群落が発達しているため、今後の動向を注視する必要がある。母島南部から向島までの島弧で囲まれた海域は、波浪や潮流の影響を受けにくく穏やかな環境であることが知られており、オニヒトデが高密度に集合するのはこの地形的な条件に起因すると推察された^{4,6)}。

これまで小笠原諸島ではオニヒトデによる大きな攪乱を受けなかったため、特異なサンゴ群集が維持されてきた⁷⁾。オニヒトデ大発生が継続したまま繁殖期（6～9月頃）を迎えると、小笠原諸島全体へ分布が拡散・定着してしまう可能性がある。小笠原国立公園の中でも、特に「海域公園地区」に指定されている区域では、卓越するサンゴ群落が優れた海中景観を生み出しており、その保全価値は高く評価されているため早急な駆除の実施が望まれる。サンゴ群落の壊滅的な食害を未然に防止するためには、オニヒトデの適正密度を保つように低密度管理を行うことが重要である。今後、関係機関と連携を取りながら駆除計画の策定に努める。

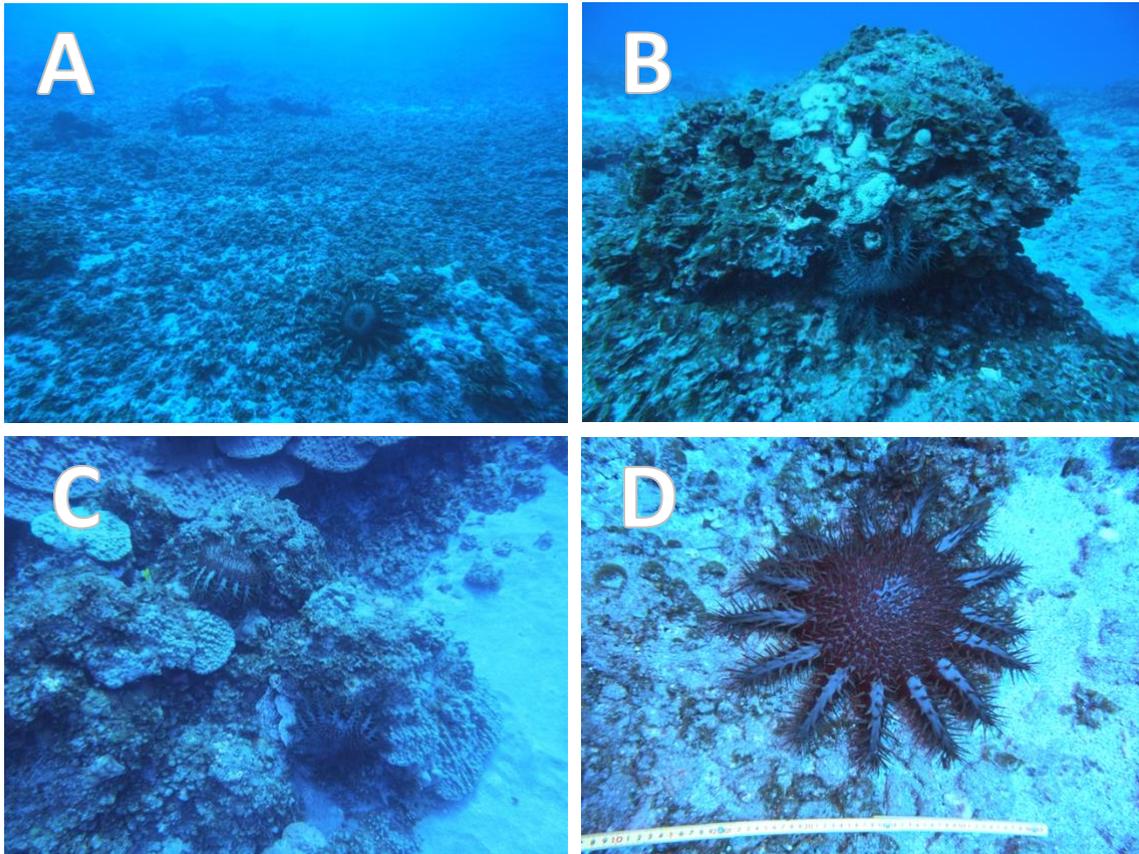


写真. 向島において確認されたオニヒトデ

A：オニヒトデの高密度分布が確認された中で、サンゴ被度が特に低い環境

B：サンゴ（コカメノコキクメイシ）を摂食したと思われるオニヒトデとその食痕

C：同所にオニヒトデ2個体が集合している

D：全長40cmで4歳齢と推定される個体

5. 調査協力団体

ダイブリゾート母島

一般社団法人 Islands care

6. 引用文献

- 1) 倉田 洋二 (1984) 小笠原諸島のオニヒトデ. 海中公園情報 61: 7-9.
- 2) 稲葉 慎 (2004) 造礁サンゴ. ロング ダニエル・稲葉 慎 (編) 『小笠原ハンドブック』 南方新社, 74-80.
- 3) 小笠原自然文化研究所 (2023) 令和4年度マリンワーカー事業小笠原国立公園父島列島周辺海域における水温計測等業務報告書. 環境省関東地方環境事務所, 33p.

- 4) 飴田 洋祐・藤井 詩織・三浦 陽 (2024) 母島列島におけるオニヒトデの分布記録. 小笠原研究 50: 45-56. (印刷中)
- 5) 財団法人自然環境研究センター (2009) スポットチェック法によるサンゴ礁調査マニュアル第 5 版. 環境省自然環境局生物多様性センター, 11p.
https://www.biodic.go.jp/moni1000/manual/spot-check_ver5.pdf
- 6) 稲葉 慎・堀越 和夫 (2004) 小笠原諸島におけるサンゴ大規模白化(速報). 小笠原研究年報 27: 17-30.
- 7) 小笠原自然文化研究所 (2017) 平成 28 年度小笠原諸島海域生態調査委託報告書. 東京都小笠原支庁, 314p.

問い合わせ

特定非営利活動法人 小笠原自然文化研究所 飴田洋祐 (ameda@ogasawara.or.jp)